

簡易チェックシートを用いたニホンジカ影響調査結果

関東森林管理局 保全課 保護係長 黒沢 幸一
一般社団法人 日本森林技術協会 関根 亨

1 課題を取り上げた背景

シカ対策を効果的に実施するため、被害状況を網羅的・継続的かつ簡易な方法で把握できる手法の開発が求められています。

関東森林管理局では、国有林の現地情報、被害の程度、痕跡の有無等を職員が短時間で記入することができるよう配慮した「ニホンジカ影響簡易チェックシート」を作成し、情報の収集を進めています。

チェックシートを活用した情報収集・分析の体制が確立すれば、今後のシカ被害対策を検討する上で大きな助けになると期待されます。

2 具体的な取組

奥日光国有林において今年度、ニホンジカによる植生への被害防止や効果的な捕獲方法等を実証する森林鳥獣被害対策技術高度化実証事業を実施するにあたり、事業を効果的に行うための事前調査として、簡易チェックシートを用いてシカによる剥皮や下層植生の摂食程度、シカ道等の痕跡を調査しました。

なお今回の調査にあたっては、植生や被害程度に関する記載区分をより詳しくするなど、実証事業に活用しやすいようチェックシートに改良を加えました。

チェックシートの調査結果、および森林簿や既往文献等から得られた情報を総合し、対象地域における被害の推移や植生の状況を図示するとともに、将来の被害予測を示したハザードマップを作成しました。

3 取組の結果

1. 剥皮被害について

主な被害樹種は、針葉樹天然林ではウラジロモミやヒメコマツ、人工林ではカラマツであり、被害はそれほど多くありませんが広葉樹天然林ではミズナラの被害が目立ちました。また、連年の継続的な被害により全体的に枯死した樹木の本数率は 11.2%、被害状況から判断して過去に被害を受け生き残ってい

る本数率は 3.1%、ここ 1～2 年に被害を受け生き残っている本数率は 2.5% でした。なお、過去にツキノワグマによる爪とぎ被害を受けた樹木ほどシカの剥皮被害を受けやすい傾向がみられました。

剥皮被害による枯死木、過去の被害木、ここ 1～2 年に被害を受けた本数率を基に剥皮被害を受けるリスク区分を行い、ハザードマップを作成しました。その結果、属地的に被害を受けやすい場所と樹種の特定が可能になりました。

2. シカの分布について

簡易チェックシートは小班の標準的な場所にて半径 10m 程度の範囲内に見られる各種現象を記録しますが、その中でみられたシカの痕跡（糞塊と獣道）数をカウントし整理しました。

シカの痕跡（糞塊や獣道）数を基にシカが集中しやすい場所を区分してハザードマップを作成しました。その結果、シカは針葉樹林や広葉樹林、人工林や天然林の別なく、比較的傾斜が緩く道路から見通しがきかない森林内に多く集まっていて、今後の捕獲対策等を検討する際の基礎資料となります。

4 まとめ

チェックシートの情報を図示することにより、現在の被害状況もちろん、森林調査簿や過去の調査結果等と照合することで被害の変遷や将来予測も示すことができました。これらの情報は、特に対策が必要な箇所の選定や捕獲罠の設置箇所等を検討する上で貴重な判断材料となると期待されます。

今後はより多くのデータを収集し、得られた情報を共有するなどして地域と連携してシカ対策を進めていきます。

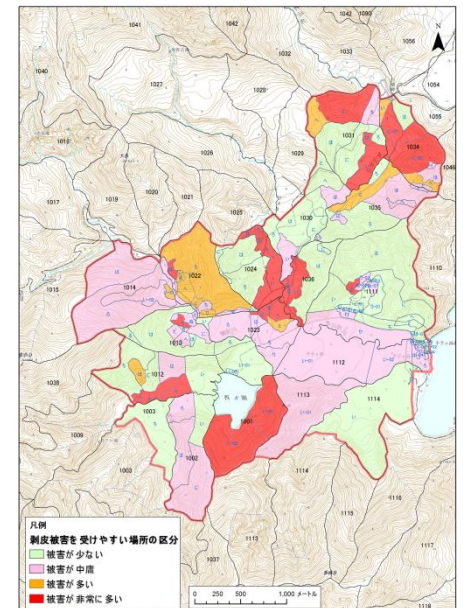


図-1 剥皮被害ハザードマップ